地域が変わる
地域活性化の現場

甲賀

滋賀県立陶芸の森

# 国際的な陶芸文化の拠点として25年
# 信楽焼を世界に発信、地場産業の振興に貢献

**やきものの里、信楽を一望する丘陵に広がる「滋賀県立陶芸の森」。陶芸に関する展示・創作・研修・交流など多様な機能で、多くの人にその魅力を伝え、陶器産業の振興、新たな陶芸文化の創造に貢献してきた。25周年を迎えた今年、あらためて地域との連携を深め、信楽の魅力発信に取り組んでいる。**

## 自然と芸術に触れる憩いの場 世界の才能が集まる創作施設

日本六古窯（ろくこよう）の一つに数えられる信楽焼の産地、甲賀市信楽町。「滋賀県立陶芸の森」はこの地に1990年、県と旧信楽町の出資で開設され、今年4月に開設25周年を迎えた。

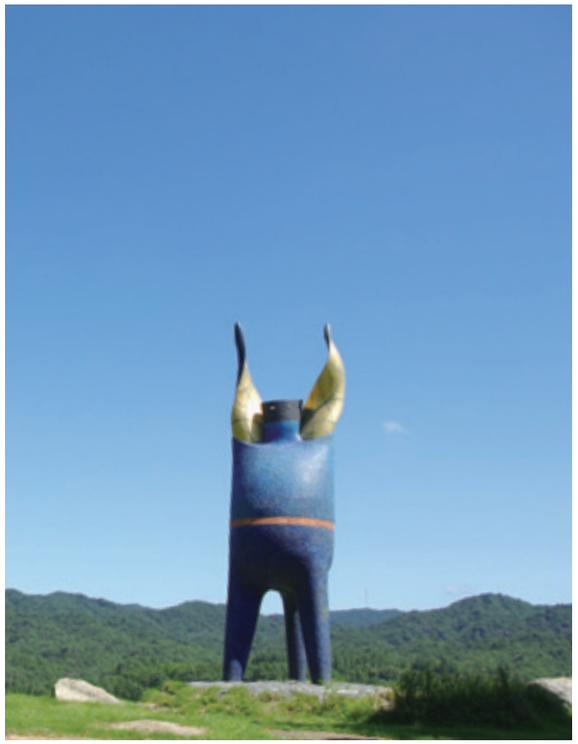
丘陵地の地形と森林を生かした広さ40ヘクタールの敷地を持つ陶芸の森は、四季折々の自然に親しみながら、野外展示された陶芸作品を自由に鑑賞することができる。さらに、陶芸専門の美術館「陶芸館」、信楽焼の最新の産業作品を紹介する「甲賀市立信楽産業展示館」、滞在型の創作施設「創作研修館」の三つの施設を備え、まさに陶芸文化を創造する世界的な拠点といえよう。

開設以来、「地場産業の振興」「世界へ向けた情報発信」「新しい文化の創造」を推進するため、公園機能の充実をはじめ、さまざまな事業を展開してきた。やきもの文化の魅力を分かりやすく紹介する展覧会開催事業や、国内外の芸術家が創作研修館に一定期間滞在し作品制作を行うアーティスト・イン・レジデンス事業のほか、子供たちがやきものに触れる楽しさや芸術を体感する教育プログラム「つちっこプログラム」などだ。

## 年間30万人以上の観光客が来訪 陶芸体験する子供は約1万人

陶芸館ではこれまでに70を超える展覧会を開催、延べ入館者数が2013年に100万人を突破した。92年に始まったアーティスト・イン・レジデンス事業では49カ国、延べ約千人の芸術家をこれまでに受け入れてきた。そして、つちっこプログラムは、子供たちが陶芸の森で鑑賞、見学、制作するほか、アーティストとボランティアが協力して学校に出向き制作体験活動を組み合わせたプログラムを行う。子供たちの新たな能力を引き出すことができると評価が高く、今では年間約1万人が参加するまでになった。

これらの事業の展開により、陶芸の森全体では、現在、年間30万人以上が来場する県南部地域の有力な集客施設になっている。



屋外にも陶芸作品がたくさんあり、散策しながらアートを楽しめる。
写真は星の広場にある、サンドロ・ロレンティーニ（イタリア）作「炎の人」

## 海外施設と共催の公募展 国際シンポなどの記念行事を開催

陶芸の森では「信楽から世界を見る 世界から信楽を見る」をテーマに、さまざまな25周年記念イベントを企画している。

「信楽にはやきものの里としての伝統の力がある。これまでの活動成果の蓄積や人的ネットワークを生かし、伝統と革新がせめぎ合う日本の陶芸の最前線を映し出す、陶芸の森らしい記念企画が用意できた。〝世界へ〟と〝まち（地元）へ〟、この二つの方向にベクトルを合わせ、世界へ向けた発信を地域と共に取り組んでいきたい」と思いを語る森野泰起副館長。

記念催事の中でも中心となるのが、秋に予定している国際シンポジウム&ワークショップ「やきものの今とその可能性」。各国のレジデンス事業実施団体のコーディネーターや作家を招き、アーティスト・イン・レジデンス事業の現状と課題について意見交換し、将来の国際的なネットワーク形成につなげていく計画だ。

また、陶芸館では四つの記念展覧会を予定している。第1弾は3月から開催中の「リサ・ラーソン」展。続いて、夏に「土・祈り・イマジネーション…岡本太郎の言葉とともに」展、秋には「信楽への眼差（まなざ）し」展、そして、来年3月からは「日本現代陶芸」展が予定されている。※

日本現代陶芸展は、アメリカ・ミシガン州にあるフレデリック・マイヤーガーデンズ&スカルプチャーパークとの共同開催。日本陶芸の今を紹介するために、陶芸の森が初めての公募展を実施する。

また、秋には信楽の街を会場にしたイベントの開催が予定されている。実行委員会には陶芸の森からも数名がメンバーとして参加。地域の若手作家や窯業関係者、社会人の有志などと交流を深め、今後も地域活性化のキーパーソンとして活動していくことを視野に入れている。

やきものの美と魅力が味わえる、陶芸専門の美術館「陶芸館」

## 伝統産地の課題は人材育成、デザイン力&マーケット力の向上

「ライフスタイルの変化、輸入品や安価な製品の普及などで、信楽は厳しい状況にある。技術の継承や人材育成、デザイン力、マーケティング力の向上などの課題にも直面している。しかし、土に恵まれ、多様な窯（かま）と、優れた焼成（しょうせい）技術がある信楽は、産業・文化・人材がそろった地域資源が豊かな産地として世界的にも評価が高い。陶芸の森は25年の間に独自のノウハウや成果を蓄積してきた。地元産業界と陶芸の森が、それぞれの特長を相互にやりとりすることで、地域活性化の道筋が見えてくるのではないか」と川口雄司館長は期待を込める。

リサ・ラーソン展は人気の企画。初日の開場前には長蛇の列ができた。信楽高原鐵道では、リサ・ラーソンの人気キャラクターをラッピングした「マイキー・トレイン」を6月7日の会期終了まで運行している。信楽の景色の中を走るその姿は、地域と共に進もうとする陶芸の森の姿勢を表しているかのようだ。陶芸の森の25周年は、新たな信楽に向け、活気のあるスタートを切った。

アーティスト・イン・レジデンス事業で、制作に励む海外アーティスト

「つちっこプログラム」の一環で、学校に出向いての陶芸教室

**陶芸の森では2012年4月に「陶芸の森やきもの振興基金」を創設し、陶芸の森の事業活動を支援する寄付を広く募集している。問い合わせは、電話0748-83-0909**

※日本現代陶芸展=「マイヤー×信楽大賞 日本陶芸の今―伝統と革新」展

Regional vitalization

●滋賀県立陶芸の森▼http://www.sccp.jp/